

# 提 案 概 要

実施期間	7月29日(火)【午後】
部会名	小学校 総合的な学習の時間部会

## 1 提案テーマ 『協同的・探究的な学習に自ら意欲的に取り組む子どもの姿をめざして』

## 2 単元(題材) 「食を見直そう 腰越SM(食を見直そう)プロジェクト」

## 3 学年 第5学年

## 4 平成25・26年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 探究的な学習としての充実
  - ・探究活動のまとまりとなる単元作成の工夫
- ③ 体験活動と言語活動の充実
  - ・言語による整理・分析等の重視及び他者との協同した活動の工夫

## 5 学習指導要領との関連(内容項目)

第5章 総合的な学習の時間 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 (2) (3) (4) 2 (2) (5)

## 6 実践に向けての課題意識

本校の学校教育目標に「児童相互の響きあう力」を掲げている。学校の日常生活や行事を高学年が中心となり、リードしている。しかし、本学年の児童は高学年としての意識は薄く、友達と協力して主体的・継続的に課題を解決していくとする姿勢にやや欠ける。このような姿を踏まえ、子ども達にとって身近で、目に見える課題として「給食の残食」に着目してみた。毎日の残食を、具体的な日々の実践による継続的な題材とすることで、この課題は、学級のみならず、学校全体の課題でもあるという視点に、子ども達の問題意識を高めていきたい。日々継続的に調査や探究活動を進めるうちに、子ども達が自分自身で取り組める解決策を考え、実践し、その取組を全校へと発信することで、自ら学び、自ら考える力やねばり強く課題に取り組む力を伸ばしてほしいと願い、本単元を設定した。

## 7 実践の概要

- 学習指導要領に沿った年間指導計画・評価計画について
  - ・年間指導計画は、「食を通して」という学年の柱を立てながらも柔軟な計画として捉え、子ども達はその時その時出会う課題や気付きを大切に、活動を計画し、学びの時間を保障できるように設定している。
  - ・他教科と総合的な学習の時間を関連させ、横断的・総合的な学びが深まるように計画している。
- 言語活動の充実について
  - ・各学年等への調査や発表では、発信する根拠を明確にし、聞き手にあった内容や話し方をグループで考え、取り組ませた。また、それにあった資料の選択、情報の整理・分析をし、まとめ方の工夫をさせた。
- 指導方法の工夫
  - ・課題との出会いが重要と考え、課題を身近に感じさせるために、残食を測定すると「おちゃわん〇〇杯分になるかな」などの視覚的なまとめ方を取り入れることで、クラス全体に驚きや危機感を共有させた。その後の活動は、計画に沿いつつも、子ども達の疑問やつぶやきを大切に取り上げ、児童にとって主体的な活動になるよう心がけた。
- 評価の工夫
  - ・ワークシート等への教師のコメントだけでなく、ウェビングやKJ法の手法を用い、現在の活動の進行状況や広がりなど互いの活動を全体的に把握し、共有できるようにした。このことにより、児童も自分自身の活動の振り返りや自己評価のみならず、友達の活動の多様さに気付くことで、認め合い、互いに評価し合うことが容易になり、教師の評価が児童の活動の意欲や持続力につながるように努めた。

## 8 成果と課題

- (成果)・目に見える課題に向き合い、成果があったことで、子ども達が最後まで継続的に活動することができた。
  - ・教師側の意図はありつつも、子どもの疑問や考えを大切にした「子ども達の主体的な活動」ができた。(課題)・子ども達は課題に対してよいアイデアを出したが、時間的な余裕がなく、実現までは至らなかった。

## 9 予想される協議の柱

- ・子どもの関心・意欲を持続させる題材をどう探すか。
- ・子ども達が主体的に活動に取り組んでいくための指導の工夫や問題に直面した後の活動の進め方やまとめ方について。